

わんぱく坊やと暮らす

40代高齢の夫婦から、何故こんなに活発で、突っ走ったら止まらない、自我の強い子供が生まれてきたのかしら？と思います。理由を付けるとしたら、40代になって、いろんな角度から物事を見ることが出来るようになり、息子の想定外の行動に対して、それほど腹を立てることがなく、客観的に見たり分析したり、笑えてしまうからでしょうか。ただ、体力は持ちませんが…。手を洗うのも嫌、お風呂も嫌い、歯磨きも嫌い、靴を履かずに外に脱走して、足を洗わせてくれない息子に、腹を立てても自分が疲れるだけだと思い、ここは犬を一匹飼っていると思って、家が泥だらけになろうが、柱がかじられようが、目をつぶろうと思っています（しつけを放棄しているのではないですよ）。2歳9か月になる息子は、2歳5か月で、おしっこうんちがトイレで出来るようになりました。今回は、ハチャメチャな息子の、エピソードをみなさんにお話ししたいと思います。

「おしっこ編」 夏の暑い時期に、布パンツに替えて、おしっこで濡れた感覚を伝えると、おむつがはずれやすくなる、という話を助産師さんから聞いて、試してみました。息子は、床のあちこちでおしっこをしながら、パンツとズボンが濡れて気持ちが悪い感覚を覚えました。その都度、「おしっこが出る時は教えてね」と繰り返し伝えるようになりました。しかし、自分でズボンとパンツを脱ぐ、ここまでではいいのに、「待ってて」「見てて」と言ってトイレに向かわず、外に走り出し、立ちしょんして帰って来ることに。庭で立ちしょんするのが、解放的で楽しいようで、しかもおしっこの間隔が短くて、30分おきにおしっこをしていました。犬のマーキングみたいだなあと思いました。困ったことに、息子は夜になっても、庭へ走り出し、星が輝く下や、雨にも負けず、おしっこをすませて、家に戻ってきました。おしっこをした後に、夜空に向かって雄たけびをあげていたこともあります。それから少しずつ、息子をなだめながら、トイレでおしっこをすることを覚えさせましたが、困った事は、我が家のトイレ以外のトイレは怖いらしく、外出した時は、外でしか出来ないこと。どうしたら、外のトイレを怖がらなくなるかしら……。でもきっと三歳を過ぎれば、少しずつ物分りできるようになり、我が家以外のトイレに入れるようになることを信じて見守るしかないかなあ、と思います。

さて、ここまで書いておきながら、息子は秋になり気温が低くなってから、トイレの間隔が長くなり、「おしっこ」と教えてくれたと同時に漏らしてしまったり、急にじたばた動き出し「抱っこ！」と言って抱き付いてきて、私のお腹が、おしっこでびしょ濡れになることが繰り返されています。おむつトレーニングはまだまだ進行中。失敗しながら、がんばろうね。

今回は「うんこ編」です。

by くろみこ

